

第64回日本学生科学賞 最終審査進出研究作品概要

JB002CE	中学	生物	奈良県
学校名	奈良教育大学附属中学校		
研究作品タイトル	中学校裏山に生えるキノコの調査 季節による種数の変化と30年前の調査記録との比較		
研究者氏名 (共同の場合はグループ)	末吉 優佳		
指導教諭氏名	佐竹 靖		

【動機】

キノコは食用から毒のあるものまで、いろいろな種類のものが存在する。また、キノコかわからないような不思議な形のものまで存在する。私はキノコのそのような点に魅力を感じ、学校の裏山にはどのような種類のものが生えているのかが気になって研究を始めた。

【方法】

調査は本校裏山で1年半に渡って行った。決めたルートを歩き、キノコを見つけたら写真を撮り、地図と記録表に記載し、標本を採取した。分類は図鑑で行い、大阪自然史博物館の佐久間学芸員に判断を仰いだ。現在の環境を調べ、30年前の調査結果との比較を行った。

【結果】

15科30属41種が見つかった。7月下旬から8月上旬に最も多くの種類が見つかった。また、11月下旬から1月上旬にも多く見つかる時期があった。30年前の調査結果と比較すると、コナラの朽ち木に生えているキノコの種数が増え、新たな種も確認された。

【まとめ】

本校裏山のキノコは、季節によって見つかる種類や種数が変動していることがわかった。30年前の調査結果と比較すると、コナラの朽ち木に生えているキノコの種数が増えており、近年裏山で見られるナラ枯れの影響がでているのではないかと考えられる。

【展望】

キノコの継続的な調査は事例が少なく、今回発見された希少種も含め、記載しておく意義が大きい。また、生えるキノコの種類が環境の影響を少なからず受けることも明らかになってきたので、さらに詳細な植生や土壌の調査を行い、キノコと環境の関係を明らかにしたい。